

今回は、第5回さくら塾（石塚真太郎先生）の報告です。

◇ 京都大学霊長類研究所の石塚真太郎先生のお話をうかがいました！

日 程： 2020年11月27日（金）
主 催： 日本霊長類学会（出前授業2020 サルのなぜ？なに？授業）
講 師： 石塚真太郎先生（京都大学霊長類研究所）
会 場： 関高等学校
演 題： 「最新研究から見るボノボの社会 本当に平和の類人猿なのか」

◇ 講演の概要 ～石塚先生より～

ボノボは私たち人間に最も近い動物種です。ボノボは古くから「平和の類人猿」として知られ、争いが少ない穏やかな社会を形成することが知られています。このようなボノボの平和性はどのように進化したのでしょうか。この講義では、近年の研究から明らかになってきたボノボの社会について紹介します。

◇ 生徒の感想

◆今回の講演を聞いて、ボノボの生態を深く知れた。そもそも、ボノボが類人猿で、人に近い生き物という認識しかしていなかったけれど、人間のように家族や集団があり、力の順番があって、家系のバランスがヒトと似ていて、興味深く思った。

◆コンゴのジャングルにしか生息していない、ボノボはチンパンジーと違って、道具を使わなくても、十分な食料を得ることができるので道具使用が見られない、という見解を聞いて、今後の研究に生きるいい考えをいただくことができた。

◆今回の講演では、ボノボについて話を聞いて、また、新しく霊長類について理解を深める事ができたので良かったです。また、先生の将来についての助言や、どういう経緯で辿り着いたのかなどの興味深い話も聞けてとてもためになりました。

今回の話では、メスが地位が上であるといういつもとまた違う話が聞けて楽しかったです。僕が一番面白いと思ったところは、近くに食べ物があるのに、仲間から食べ物を分けてもらうという社会的な関係も考えていると知ったところです。また、これからも、いろんなサルについて知っていきたいと思いました。

